



朝晩は過ごしやすくなり、少しずつ秋らしくなってきました。図書室にいと、皆さんのすてきな歌声や部活動の元気な掛け声が、よく聞こえてきます。芸術の秋、スポーツの秋と一緒に、読書の秋も楽しんでください。



謎が謎を呼ぶミステリー



10月7日がエドガー・アラン・ポーの命日ということで、その日は「ミステリー

記念日」とされています。そこで今月は、おすすめミステリー作品を紹介します。

🔍『モルグ街の殺人』 エドガー＝アラン＝ポー 怪奇・探偵小説集 2 より

エドガー＝アラン＝ポー：著 谷崎精二：訳 偕成社

ポーは、ここに収録されている『モルグ街の殺人』、他5編の推理小説を書き、のちに「推理小説の父」と呼ばれます。パリのモルグ街で起きた残忍な母娘殺人事件で、探偵役にオーギュスト・デュパンが登場します。世界初の密室トリックが使われたこの事件には、とても意外な結末が待っていました。

🔍『容疑者Xの献身』 東野圭吾：著 文藝春秋

天才物理学者の湯川学にも一目置かれる存在だった、天才数学者の石神。密かに想いを寄せる隣人のために、完全犯罪を計画します。しかし、親友でもあった湯川がこの事件の解決に乗り出したことで、新たな展開へと動きだします。ミステリーとラブストーリーのどちらも楽しめる作品です。

🔍『東京下町殺人暮色』 宮部みゆき：著 光文社

順は、刑事をしている父と一緒に下町の荒川で暮らす中学生です。友達の慎吾や家政婦のハナと一緒に穏やかな日常を過ごしていましたが、荒川でバラバラ死体の一部が発見され、一変します。さらに、順の家に犯人の告発文が届いたことから、順も独自に捜査を始めます。後に、『刑事の子』に改題。



3. すべての人に健康と福祉を

—あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する—

妊産婦や新生児、5歳以下の幼児の死亡率を下げ、伝染病その他の病気の予防や治療を進める。汚染物質による病気を減らし、薬物やアルコールの乱用を防止する。医療従事者を増やし、誰でも保健サービスが受けられるようにする。

『たいせつな気づき 新型コロナウィルスをのりこえた未来の物語』

Tomos Roberts：著 Nomoco：絵 大嶋野々花：訳 創元社

この絵本では、昔話として「あの頃」のことを父が子に語ります。早さや便利さが優先され、自然破壊が進んでしまった世界で、コロナの流行が人々に気づかせてくれたこととは何だったのでしょうか。

この本、読んでみませんか？

(図書委員 さくらさんのおすすめ)

『5分後に感動のラスト』

エブリスタ：編

河出書房新社



この「5分後」シリーズは、小説投稿サイト「エブリスタ」が主催する、短編小説賞「三行から参加できる超・妄想コンテスト」の入賞作品から、選りすぐりのものを集めています。今回紹介するこの本は、ラストに必ず感動が待っている作品集です。一つ一つの作者が違って、とても短いストーリーですが読みごたえのある作品ばかりなので、ぜひ読んでみてください。